さかいの部屋からコンニチハ

さかい周辺に住む学生たちの暮らし、気になりませんか？
個性溢れる学生たちの生活ぶりを紹介します

山本真紀さん (23歳)
バイト：クリーニング工場
家賃：¥55,000
最寄り：東小金井駅
立地：駅から徒歩３分

一人暮らしの良い点：
洋服をたくさん買っても怒られない

部屋の悪いこと：
少し狭いかな？

中本雄大さん (21歳)
バイト：カラオケ店スタッフ
家賃：¥65,000
最寄り：武蔵境駅
立地：駅から徒歩５分

一人暮らしの良い点：
一人の時間を満喫できる

春にチャレンジしたいこと：
秩父までサイクリングする

蛭川芽衣さん (21歳)
家賃：¥68,000
最寄り：武蔵境駅
立地：駅から自転車10分
好きな色：ピンク

趣味：
ホラー系の DVD 鑑賞

春にチャレンジしたいこと：
仲間とイチゴ狩り

高地伸幸さん (23歳)
バイト：派遣
家賃：¥0 (実家)
最寄り：田無駅
立地：駅から徒歩10分

部屋の良い点：
趣味のアイテムであふれている

部屋で落ち着く瞬間：
朝起きてコーヒーを飲んだとき

渡辺賢斗さん (20歳)
家賃：¥0 (実家)
最寄り：武蔵境駅
立地：駅から自転車10分
よく遊びに行くところ：
吉祥寺

実家暮らしの良い点：
家事をやってもらえる

春にチャレンジしたいこと：
留学したい

岡崎佑希子さん (20歳)
家賃：¥77,000
最寄り：武蔵境駅
立地：駅から自転車10分
よく行くところ：
境南口のイトーヨーカ堂

得意料理：
オムライス

春にチャレンジしたいこと：
バイトを始めたい

景井佑馬さん (21歳)
バイト： 派遣
家賃： ￥50,000
最寄り：東小金井駅
立地： 駅から徒歩 15 分

部屋の良い点：
日当たりが良い

春にチャレンジしたいこと：
長期間フットサルをやっていないので、また打ち込みたい

分部陽実さん (21歳)
バイト：学内アルバイト
家賃：¥70,000
最寄り：武蔵境駅
立地：駅から自転車10分

お金の使い道：
飲み会が多い

今後の目標：
学生生活最後の年を充実させたい

学びの「場」をつくる人

「知と知が交じり合う空間をつくる」

カフェ・フェルマータ
松井隆雄

人が集い、物事が自由に行き交う場所、それがフェルマータである。幼少期と高校生活、更には社会人になってからも海外で過ごす時間が多かったという店長・松井さん。カフェとは、人々が好きなようにくつろげる空間であるとともに、様々な人間関係やその地域の文化が生まれる場所であることを自身の目で見てきた。「世代や人種、性別などあらゆるものを取っぱらい、人と人とをつなげる場所をつくりたい ── 」。そんな松井さんの想いは、武蔵野プレイスの１階中央で日々温かな光を放っている。

フェルマータで定期的に行われている「武蔵野Talkin' About」は、松井さん自身が出会った大阪のカフェに倣い、始められた。本や映画、ワインや旅といったテーマを元に自分の想いや体験を好きに語ることが出来るこのイベントは、どんな人でもふらっと参加することの出来る、フラットな場であることを大切にしている。

武蔵野Talkin' Aboutで扱うテーマは、何かを「好きだ」と思う気持ちはどんな立場の人であれ対等にぶつけ合うことが出来るものだと松井さんは語る。意見の対立を純粋に楽しめる、そんな風に心を解放できる場は、現代社会においてとても価値のあるものだ。

普段の生活の中で自分が目にしたものや感じていること、あるいは好きなものについて、他者へ伝えるという行為を意識することで様々な感覚が研ぎすまされる。それによって得られる新たな視点にハッとする面白さもある。本や映画など、個人でも楽しめるものをあえて他者と共有することで、人々の知と知が交じり合う空間がつくられる。そこでは、自分の中の知識を誰かへ向けてアウトプットし、互いに新たな発見を得る喜びを感じられる。

公共施設であるがゆえに凝った宣伝をしなくとも人が集まってくる。このことを松井さんはうまく利用し、自身の目指すフラットな学びの場をつくりあげている。企画そのものはあくまで気軽に参加できる内容であることを重視し、あとはそこに集まって来た人々が自由に会話をし、場をつくりあげていく。何よりも「人」を尊重し、その人が持つ「知」に敬意を払う。これこそが、コーディネーターとしての松井さんの姿であると感じた。

そんな武蔵野 Talkin' About が「本でも、映画でも、何かカタチになるものを生み出す場になってほしい」という松井さん。多くの人が住み、通勤・通学などでもたくさんの人が集まる武蔵境。この土地には、生活する中で発見した自分だけの知識や意見を持った人たちがまだたくさん潜んでいる。ここに暮らすあらゆる人々の知が交じり合い、世の中に新たな文化を発信できる日もきっと遠くはないだろう。

自分の興味や関心、心の惹かれる物事を知り、それについて静かに自分の内で知識を深める人がいる。自分が他人や社会に対して何をしていけるのかを考え、それをカタチにできる人がいる。仕事や家庭、それぞれの生活を持ったくさんのオトナが暮らすさかいで、人々の日々の視点がほんの少し変わるきっかけとなる、そんな学びの場を提供するお2人にお話を伺いました。

「自分自身、教えるのも教わるのも楽しい」と語る松井さん。

みんなでひとつのテーブルを囲み、コーヒーやディナーと共に思う存分会話を楽しむ。

本、映画、ワイン、旅行など主にカルチャーやアートをテーマに意見を交わしている。

「想いのある人を集めたら、場になった。」

有限会社あきゅらいず美養品
平野知実（とも）

「幸せとは、自分の周りにいてくれる人や時間を主体的に愛すること」であると語る平野さん。10歳の時にプロの劇団の公演に参加し、観客が一斉に笑ったり涙したり、人の心が一斉に動く瞬間を今でも覚えている。それが原体験となり大学では芸術学部に入学。人の心の動きや心のつながりを大切にした上で、他者や物事を主体的に愛するためにはまず自分自身を認めてあげることが必要だと気づく。現在では小学生や高校・大学生を対象に、様々な立場のゲストスピーカーの話を聞きながら自分自身の生き方やはたらき方を考えるワークショップを企画している。最大の目的は、学生が「自分らしさ」を見つけ出し、その上で自分と社会を結びつける糸口をつかむことである。

そうした、ともすれば個人の内に籠っていても考えられるようなテーマを平野さんがイベントとして企画するのは、個人としての自分と、他人・社会という関係性の大切さを参加者に身を持って感じてもらうためだ。平野さんにとって「学び」とは、一人でじっと座って何かを見たり読んだりするだけではなく、自分自身で感じることである。足を運び、人に会って話を聞き、自分の心で感じた経験から改めて考えを深めることで得られる学びの実感は、とても大きい。

「自分らしさは、自分だけを追求した先で見つかるものではない。なぜなら、私たちは一人では生きていないから」と平野さんは語る。人や社会にとって自分はどんな役割を担えるのか　。この問いに対する答えを夢中になって考えることが、結果として「自分らしさ」をつくり上げる。

「何かを知りたいと思う気持ちが湧いた時に、この国でも、年齢や立場に縛られずみんながいつでも学びに出られる社会になってほしい。一度社会に出たら学校に入り直すことも難しい今、まずは社会や地域の中で人々が自由に、有機的につながることのできる場所をつくりたい」。この想いが、平野さんが企画を行う原動力である。何かを知りたいと思う人と、何かを伝えたいと思っている人を集めることで場はつくられる。「想いのある人を集めたら場になった」このシンプルな言葉こそ、周りの人を愛し、敬意と信頼を持って接している平野さんの姿そのものだろう。

平野さんは人とのつながりという言葉を、人と関係している状態と言い換えた。関係とは、関わり合い、そして係を担うということ。「常に他者や社会に対し積極的に関係していたい」と話す。平野さんが勤めるあきゅらいず美養品では、社会人や地域の方々を対象にしたイベントも多い。何歳になっても自分にとっての学びの場を持ち、その中で本当の「自分らしさ」に気づくことのできるオトナが武蔵境やそして現代の社会に増えていって欲しい。きっとそのことが、いつか大きな世の中の変化へと繋がっていくだろう。

自分らしい生き方・はたらき方を感じ、考えるイベント
『みんな違って、みんないい～夢を仕事にする～』
2012/12/15(土)10：00～17：30
※詳細はあきゅらいず美養品HPをご覧下さい。

「与えるだけではなく、自分もたくさんの学びをもらっている」と語る平野さん。

イベントでは、あきゅらいず社員食堂の手作りランチを楽しむ時間もある。学生や社会人という枠を取り払ったオープンな語り場となる

自分のしたい生き方を「仕事」と共に考える。イベント後、「自分と向き合うことを始めてみます」と語る学生もいる。